

まえがき

「臨床心理士は会社経営の役に立つ」と言われたら、経営者の方々はどう思われますか。

「臨床心理士という言葉になじみがない」

「臨床というから医療系の仕事ではないのか」

「聞いたことあるが、ビジネスとどう関わりがあるのかわからない……」

そんな声が聞こえてきそうです。

しかし実際には、多くの企業で臨床心理士が活動しています。

臨床心理士がどのような仕事をしているか、簡単にご紹介します。

小中学校・高校のスクールカウンセラー、大学の学生相談室にいる相談員など、教育現場で生徒・学生・親御さんの相談にのる専門職として、臨床心理士が働いています。最近では「アカハラ（アカデミックハラスメント）」相談も増えているようです。

心療内科のクリニックでは医師が心のお薬を処方し、臨床心理士が心理療法（カウンセリング）や心理検査を担当します。

総合病院では、理学療法士や作業療法士など、他の専門職と連携して患者さんの心のケアを行っているところもあります。

自衛隊や警察官などの危険を伴う・命に関わる業務に従事する人たちの職場では、その特性からPTSDなどになる可能性も高く、それを予防したりダメージをケアしたりするために、臨床心理士が採用されています。

「療育センター」と呼ばれる専門機関では、赤ちゃんの発達に遅れがないかを診るために発達検査を行い、親御さんの相談にのる臨床心理士がいます。療育では言語聴覚士・理学療法士・作業療法士・保育士といった専門職と一緒に、お子さんの発達課題を見極め、成長を促すアプローチをチームで行っています。

司法の領域では、家庭裁判所の調査官や受刑者の更生支援の活動をしている臨床心理士がいます。

私たちの生活の中でも、「心のケアの専門家」は身近な存在になりつつあります。そうした「心のケアの専門職」の一つが臨床心理士なのです。

企業や職場組織の「心のケア」に従事する臨床心理士も、この二十年ほどの間に多くの企業で活躍するようになりました。そしてその活動が、従業員の心の健康保持増進に寄与するとともに、職場組織のパフォーマンス向上につながるということが認められるようになってきました。ただ残念なことに、中小企業においてはまだ臨床心理士の認知度は低く、十分に活用されていないのが現状です。なぜならば、既存の企業向けサービスは大手企業や大規模事業場に合わせたものが多く、中小企業にとって使い勝手のよいサービスになっていなかったからです。

この本では、中小企業で活用できる臨床心理士の仕事やサービスについて、実例を交えてご紹介します。読んでいただくことで、これまでメンタルヘルス対策の進め方に迷っていた会社経営者の方に、臨床心理士を活用することのメリットやメンタルヘルス対策のみならず、「業績アップ」や「コスト削減」につながることを知っていただきたいと思います。それとともに、「臨床心理士を会社経営に活用する方法」についてもお伝えできればと思っています。